

地域振興券交付事業の詳細は3頁に掲載しています。



社会に羽ばたく新成人

なつかしい仲間と門出を祝う 成人式、5百人が市民会館に

二十歳の門出を祝う成人式が、1月15日市民会館で開催されました。式に参加した約五百人の若者たちは、岡崎市長らからはなむけの言葉に大人への仲間入りの自覚をかみしめていました。

向日市特産の竹を取り入れた「向日かぐや太鼓」の勇壮な演奏で成人式が開幕。石田章向日市教育委員長の開会宣言に続き、あいさつにたった岡崎市長は「ささやかなことでも、これとすることあれば自信を持って、その夢を追い続けてほしい。その行動力の実践こそが、若者の特権である」とはなむけの言葉を贈りました。

この後、アトラクションのビンゴゲームを楽しみ、グループごとに分かれて、岡崎市長を囲んでの記念写真を撮りました。

会を喜び合う光景や、写真を取り合うなど、晴れ着姿の若者たちの華やかな雰囲気、終始包まれていました。



岡崎市長に答辞を手渡す新成人代表の浦野さん(市民会館ホール)



地元の人たちの手で現代に継承されている物集女のおこない

受け継がれる 伝統行事



一年間の平和と豊作を祈願する「おこない」が、物集女町の来迎寺で1月12日に行われました。これは、古代から大寺院で行われていた修正会や修二会が、民間に広まったものです。物集女地域では、江戸時代から神役仲間が毎年この日に集まり、「ゴオーサン(牛王さん)」と呼ばれるお札を挟む杖を作り、家内安全などを願う行事として継承されているものです。ゴオーサンは3本1組の杖で、それぞれに酢でといた赤土を塗ったお札が付けられ、そのうち一番長い1本(約40cm)には、鍋墨を用いて「牛玉宝印光勝寺」と刷られています。来迎寺の薬師堂には、午後8時になると地域の人たちが集まり、厳かに進められる行事の様子を見つめていました。最後に、すりこぎで人の額と手に持った半紙に、世話役の人が「ルリコー(瑠璃光)」と言いつつ、赤土をつける、風邪をひかないまじないの「ニユウニユウ」と呼ばれる儀式も行われ、伝統行事を肌で感じていました。